

# くまもと地名

## あらかると

河原町から白川を跨いで迎町に架かる橋と言えば、長六橋と即座に答えが返ってくるほど有名な橋である。それだけに熊本城にとっても重要な役割を果たしてきた。

慶長六（一六〇一）年に清正によって架設されて以来、熊本城下南部の防備と日向、薩摩方面への出入り口として監視所の役を果たしてきた。この間、幾度か架け替えら

56

熊本市河原町・迎町

### 長六橋

れたが、昭和二（一九二七）年に架設されたアーチ式の大鉄橋は当時としては超近代的な橋であった。

「花の熊本 長六橋から眺むれば オヤポンボコニヤ 下は白川両芝居」と唄われ親しまれた。振り返ると明治十（一八七七）年の西南の役で炎上する熊本城を、人々は長六橋の上に集まって見守った。

石光真清は『城下の人』で次のように書いている。「長六橋に来てみる

## 薩摩方面へ監視所の役割

と、附近は人で埋っていた。お、炎々と燃える天守閣！窓から凄まじい火焰を吹いて…この悲壮な情景は、筆や言葉に尽せない…」

過ぎし時代を見つめ続けてきた昭和の長六橋も先年架け替えられ、二十一世紀にふさわしい姿となった。その迎町側の橋の袂に、人知れず鎮座するお地藏さん。手向けられた一輪の花が川風にかすかに揺れていた。

（小崎龍也・熊本地名研究会員）